北海学園大学附属図書館報

図書館だより

1990. 2. 1

第11巻4号

通巻112号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ことの葉 彩時記 冬

菱川善夫

吹きすさぶ雪の私刑に頬蒼く
街に不倫のわかものら満つ
春日井建

雪の魅力

北海道の魅力は，何といっても雪の降ることだ。九州からの観光客が，吹雪の札幌を訪れ，感嘆の声を発していたが，もっともなことだ。吹雪の魅力は，その中に立ってみないとわからない。瞬時にして異次元の世界に人を誘う。幻想と神秘の力が吹雪にはある。

吹雪は，人の心の底にある狂おしいものをかきたてる。若ものが吹雪の街に繰りだすのも，雪の魔性に惹かれるからではないのか。

吹きすさぶ雪の私刑（りんち）に頬蒼く街に不倫のわかものら満つ　春日井　建

春日井建の『未青年』(1960) の一首。吹きすさぶ雪を「雪の私刑（りんち）」ととらえた感覚はさすがだ。「雪の私刑（りんち）」は，「不倫のわかもの」にとって，むしろ快感をそそる。りんちの快感を求めて街に集る若ものには，獣めいた野性がいきている。こういう若ものが，無機質の都会に生の香りを運ぶ。

雪はまた，人間の造型本能をよびさますようだ。雪が降ると，人はそれを集めて，何かを造りだそうと試みる。それが祭りとなったのが「雪祭り」だが，雪祭りの主役は雪像である。雪像のもっとも素朴な形が雪だるまだ。

さっぽろ雪まつり

平安朝の貴族たちも，雪を集めて楽しんだ。『枕草子』に雪山のことが出てくる。師走の十日すぎ，雪がたくさん降ったのを，女官どもが縁において楽しんでいたが，どうせのことなら，庭に雪山をつくらせよう，という定子の発案で，男たちに雪山をつくらせたとある。その雪山に「言加へ興ず」――つまり，あれこれと批評の言葉を加えて楽しんだ，と書かれている。

当時のことばで，積みあげた雪山を，「雪まろばし」とよんだ。〈雪転（まろば）し〉の意で，雪をころがし丸めて，それを積みあげたのだろう。スコップや雪かきのない時代だから，雪だるまにして積みあげるのが，手っとり早い方法だったと思われる。「雪まろばし」は，「雪まろげ（雪丸げ）」，「雪ころばかし」とも言った。

清少納言が生きていたら，札幌の巨大な雪まろばしを見て，いかように「言加へ興ず」ることだろう。

（ひしかわ　よしお　図書館長・教養部教授）

「図書館」という言葉

斎藤和夫

本学図書館は新館に移転して間もなく3年目を迎えようとしております。この間，入館者数は53万人を数え旧館時代との比較で飛躍的な伸びを示しております。

図書館としては一層この施設と所蔵資料が効果的に活用されるよう，改善の手を加えてきております。今回は少し硬くなりますが図書館をより深くご理解頂くために，**『図書館』**という言葉についてお話しようと思います。

「図書館」という用語は日本では明治の初めから使われるようになった比較的新しい言葉といわれ，それ以前には**「文庫」**という呼び名がもっとも一般的であったようです。

かつて慶應義塾の創始者・福沢諭吉の著書に「ヨーロッパにビブリオテーキなるものあり……」という記述があります。三田キャパスに残る荘厳な石造建築「福沢諭吉記念図書館」は，図書館の必要性を説いた諭吉の熱意を彷彿とさせるに充分なものであります。しかし，時の明治政府は欧米の先進技術の輸入には熱心でありましたが「図書館」を制度として導入することには，欧米を視察した何人もの先達の建言があったにもかかわらずなかなかそれを認めなかったようです。

図書館の機能・組織についてのしっかりした考え方も，ようやく本格的に論議され始めたのは，戦後民主主義が広まった1945年以降のことでした。明治から大正，昭和初期にかけて，市民，学者の間に図書館の必要性を説き，その実現に努力した人は大勢いました。しかし。「図書館」という用語やその存在の重要性が認められたのは戦後のことといえます。

もともと，図書館という言葉の語源はヨーロッパのBibliothek（独），Bibliotheque（仏）の訳語で，もとはギリシャ語の*βιβλιοθηκη*からきています。**「ビブリオ」**は本を指し**「テーカ」**は箱を意味しています。英語のLibraryはラテン語から取っており，**「リブリ」**は本のことを言います。欧米ではこの言葉は本を納めるというところから，**「本のコレクション」**をさすようになりました。これはおそらく，本を収集するということの重要性と意義を貴族から市民にいたるまで充分認識していた，ということでもありましょう。このようなことから，今でも欧米ではBibliothekまたはLibraryという場合，「図書館」という意味と「本のコレクション＝叢書」の二通りの意味で用いています。

（さいとうかずお　図書館事務長）

永遠（とわ）の童夢人——*シュリーマン没後100年*

1890/12．20～1990/12．20

トロヤの王子パリスがギリシアの王姫を奪ったことから起きたトロヤ戦争を詩聖ホメロスは1年に要約して描いた。戦いを仲間のいざかいから回避していたギリシアの勇将アキレウスは親友の死が伝えられるとようやく重い腰をあげた。そしてトロヤの英雄ヘクトールとの一騎打ちとなる。結果はアキレウスがヘクトールを討ち取って終わる。

この物語を長年神話と信じた人がほとんどだったがドイツの少年シュリーマンだけはちがっていた。クリスマスのプレゼントで読んだこの物語を彼は実在する物語と信じた。

家が貧しかったのですぐ働らいた少年はのちにロシアに渡り巨万の富を築いてからこの念願の発掘事業に取り組んだ。時に40歳。

仏語，ロシア語はもとよりホメロスを愛読するためのギリシア語をふくめて20カ国語をマスターした語学の天才だった。

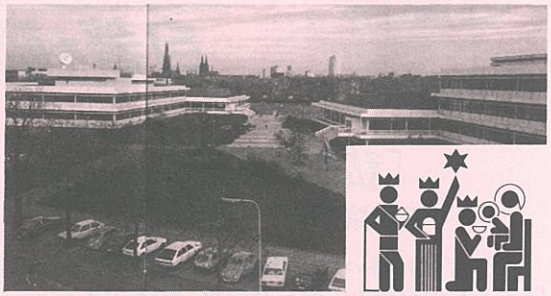
そして彼はついに「トロヤ遺跡」を掘り当てた。

1990年の今年は彼の没後100年。「永遠の童夢人」は真の知求人であった。

ほかほか外遊記

ケルン大学雑観

吉田敏雄



私は，1988年10月から約1年間，十数年振りに渡欧し，西ドイツはケルン大学法学部の研究室で仕事をしてきました。そこで見聞してきたことのほんの一部を皆さんにご紹介しましょう。

オーデコロン，大聖堂で有名な古都にあるケルン大学は，1388年に，ドイツ語圏では，プラハ，ウィーン，ハイデルベルクに次いで四番目に創設された伝統のある大学で，1988年にはちょうど600周年を迎えました。法学部では，「600周年記念論文集」が刊行されたり，「日独刑法会議」が開かれたりしました。ケルン大学は，西ドイツでは，ミュンヘン大学，ベルリン自由大学に次いで三番目に大きな大学です。経済学・社会科学部，法学部，医学部，哲学部，数学・自然科学部，教育・治療教育学部，その外，多くの研究施設があります。1986年会計年度では，人件費・物件費を含めた全体予算は5億7,600万マルクで，そのうち3億4,400万マルクが医学関係施設に支出されています。1マルク＝80円で計算してみて下さい。

私は，大学本部・講義棟にある法学部刑法研究所のヒルシュ教授のところで仕事をしていました。同教授の刑法各論講義は，1988/89冬学期に，週三回，大講義棟講堂で開講されました。初級刑法講義を終えた学生を対象とした，設例中心の講義です。当初は，大講堂も満席でしたが，何回かの中間試験・宿題課題を経るうちに，受講者は次第に減少し，最終的に合格した者は受講登録者のほぼ四分の一，「優」合格者は一桁にすぎないようです。ヒルシュ教授だけが厳しいのではなく，ケルン大学法学部には「仏」はいないそうです。ヒルシュ教授の刑法・刑訴法・刑事政策演習は，研究所内で週一回開かれました。報告者は，10枚ほどのタイプ打ち原稿を読み上げ，その後質疑・応答が始まります。ヒルシュ教授は，学生自身による質疑・応答が重要であるといいながら，時間の大半をご自身の説明に費やしておられました。こうなると学生は楽ですね。演習の最終日には，同教授から学生一人一人に終了証書が手渡されます。それから同教授主催のお別れワイン・ビール・パーティです。これは同教授の師匠，ヴェルツエル教授以来の伝統だそうです。

刑法研究所には，外国人研究者も多く，私のほかに，日本人5名，ポーランド人3名がいましたし，博士号取得準備留学生として，日本人2名，ギリシア人2名，韓国人1名，スペイン人1名がいました。

一般学生は，法学部各研究所の図書室を利用できますが，大学本部・講義棟にある法学部学生専用大図書室も利用できます。これは，平日ですと，9時から22時迄利用でき，その廊下には十数台の複写機が並んでいます。大学本部・講義棟内には，朝の8時に開店する軽食堂もあります。もちろん，別棟の三階建大食堂もあり，学生はここで昼，夕，安価で栄養のある食事をとることができます（一番高価な定食が約300円）。羨ましい勉学環境ですね。

お伝えしたいことはまだまだたくさんありますが，字数に制限があります。学生の皆さんも，ケルン大学といわず，多民族・多言語のヨーロッパで勉強してみませんか。「国際」的なるものを実感できるのではないでしょうか。

（よしだ　としお　法学部教授）

ついに甦った『歓喜の歌』 *ルーマニアに咲く夢言花*

ポーランドに始った東欧圏の民主化の波はブルガリア，ハンガリー，東独，チェコを席巻したあとついにドナウ最後の地ルーマニアに及んだ。クリスマス・イブ，ルーマニアはついに独裁者を逮捕して長い圧制に終止符を打った。

その時，ラジオから流れた曲はベートーヴェンの第九から『歓喜の歌』だったという。

それにしても自由を求めることのなんという壮烈な戦いだろう。それだけ圧制の強さを物語る。

動乱の20世紀もあと10年。

ふりかえればこの20世紀のメインチーマは「ロシア革命」ではなかったか。

この世にはじめて出現した社会主義に世界は注目し，又さまざまな攻撃を加えた。第1，2次大戦はそのあらわれだったろう。

「自由の王国」の一里塚と思われた社会主義が「独裁の王国」になろうとは。しかし、東欧の民主化の波は「真の自遊」への第一歩となった。

他方，工業化をとげた日本は時間の圧制のもとにある。自遊人の道はまだきびしい。

自著を語る ……⑫

「私という剣（つるぎ）」

雁書館 1989 ── 菱川善夫

1980年代に書いた批評の中から，前衛の文学に関するものを集めて編んだのがこの本である。

'80年代の文学が，大衆化と商業化の波に押し流されて，大切な魂の覚醒力を失ったけれど，その状況にメスをいれ，現代の前衛に求められているものをあきらかにしようとした本である。「私という剣（つるぎ）」の〈剣（つるぎ）〉は，日本刀のようなかたなではなく，草薙の剣のような，古代の直刀をイメージに置いている，祭祀用の刀，魂に力をさずける刀のつもりだ。

塚本邦雄が，「日本経済新聞」（'89.11.11）に，この本の書評を書いている。

「現代短歌の評論家として，常に最前線にあり続けているこの書の著者は，その出発，昭和29年の『敗北の抒情』以来，まさに，おのが論説を『つるぎ』とし，それを正眼に構えて，斬るべきは敢然として斬って来た。

なぐさみに，便宜的に，撫で斬りするかの微温的な批評も横行している短詩型の世界では，この名刀正宗的な，冴えた筆法による卓説は貴重であった。1980年以降，すなわち著者の知命以降の文章を集めた『私という剣』一巻は，その舌鋒の鋭さ，その快速調のたたみかけが相変らず若々しく，また大いに説得力が加わってきた。

いわく『冒険的大衆歌人論』『前衛の文学論』『80年代における文化の現在』等の各論タイトルはもちろん，『想像力は反動化の潮流に耐えられるか』の副題にも想像できようが，切れば血の出る，痛切な現代韻文定型詩への提言である。単に詩歌の領域に止まらず，苦痛に満ちた，明晰な文明批評たり得ていることも注目に価する。」

これで内容を察知してもらえれば幸だ。

（ひしかわ　よしお　図書館長・教養部教授）

「BASICによる橋梁工学」

共立出版 1989 ── 当麻庄司

そもそもは卒業論文の指導ということで始めたものであるが，やってみると学生のプログラミング能力は我々中年族よりはるかに優っている。橋梁設計はもともと手計算でやっていたものであるから計算内容に複雑なところは別になく，ただ設計手順やプログラミングの組立が難しいだけである。そこのところをうまく指導してやると，最初の年に興味を持つ学生がいてこちらが感心するほどの合成桁設計プログラムの基礎となるものを作り上げてしまった。そうなるとこれをほっておく手はなく，翌年から本腰を入れてプログラムの完成に取り掛かり，結局出来上がるまでに3年がかりで7人の卒論生が携わることとなった。

つい何年か前までは工学部でまともなコンピュータ設備のない全国でも珍しい大学であったのが，電子情報工学科が新設されることになって最新のパソコンが設置された。先のプログラムとパソコン設備の両方がそろうことになって，いよいよこれを授業に利用するためにはよい解説書が必要になる。そのような経緯を経て生まれたのが本書である。学生からは非常に親切な本だとすこぶる評判がよい。それもそのはずで，私が講義する内容を全て本書に記述しているからである。

コンピュータを用いた設計演習は一歩間違えると設計の本質を見失うことにもなりかねない。煩わしい計算業務をできるだけコンピュータに任せ，学生には設計の中で技術者が判断すべき評価力を養うことができるように心がけている。

（とうま　しょうじ　工学部教授）

新着図書 ── 経済

牧野昇の産業これからどうなる　牧野昇著／**日本的協調主義の成立**　池田信著／**公共部門の争議権**　兵藤釗「ほか」編／**第四次全国総合開発計画　―40の解説―**　国土庁計画・調整局四全総研究会編／**プログラム学習による経済学入門**　G．R．テルー著／**福祉国家1～6**　大学社会科学研究所編／**現代牛肉経済の諸問題**　森島賢編著／**図解経済原論　日常経験からの応用例題演習**　吉永実著／**先端技術産業と地域開発　―地域経済の空洞化と浜松テクノポリス―**　上原信博編著／**貿易調整のメカニズム**　佐々波楊子「ほか」著／**現代経済学ガイド　人と理論のプロフィール**　日本経済新聞社編／**サービス経済論入門**　羽田昇史著／**自動車産業と労働者**　野原公・藤田栄史編／**自由時間都市　―リゾート新時代の地域開発―**　P．ラシーヌ著／**地域産業構造の変貌と労働市場の再編**　黒川俊雄著／**図説日本経済　―90年代へのトレンドを読む―**　武藤博道　日本経済研究センター編／**自由論**　I．バーリン著／**「地方の時代」と労働問題**　西村豁通・星島一夫編／**税理士がすすめる上手な財産の譲り方**　宇野貞司著

新着抄

気楽に読もう

4女性館員による物語駅伝

『イエスタディ・ワンス・モア』
―懐かしい時代の青春像を描く―

小林信彦著　新潮社　1989

1989年の現在から，30年前の東京へタイムスリップしてしまった18歳の少年。彼がふとしたきっかけで，台頭期のテレビ界に身を投じ，天才的放送作家として生活する半年間の顚末を描くこの小説は，小林信彦にしては珍らしく，清朗でさわやかな作品。巻末の作者の言葉どおり，とっても「キュート」な物語であると思います。

あなたも，是非一度よんでみて！　(A)

『シェイクスピアの人間語録』

小田島雄志著　ＰＨＰ研究所　1985

シェイクスピアの楽しさって，セリフの魅力につきます。私たちの感情を主人公，端役，善人，悪人に問わず，見事に小気味よくスパッと語らせています。登場人物の気持ちが，まるで，自分や，身近な人のような気がしてきます。

この図書の中で小田島雄志氏は，シェイクスピアの言葉を自分や，友人の心境にあてはめて，解説と雑感を加えています。皆さんは，この本で満足するか，個々の作品にアタックするか？

To be or not to be, that is the question.
（このままにしておくか，他の方法を選ぶか，それが，問題だ。）

（ハムレットから）

(O)

『はじまりコレクション（全3巻）』

チャールズ・パナティ著　日本実業出版社　1989

数字の13の迷信や四つ葉のクローバー，アイスクリームなど，あなたの日常にある物事の「はじまり」を知っていますか？

改めて聞かれると首をひねられる方も多いのではないでしょうか？

私たちの身の回りには，迷信や習慣・食べ物など，さまざまな物事があります。この本で，これらにまつわる意外な「はじまり」を読んでみてください。　(F)

『ドル・ドル・ドラニ』

タゴール暎子著　筑摩書房　1989

〝ドル・ドル・ドラニ〟（ぶらん・ぶらん・ぶーらんこ）はベンガル地方に古くから伝わる子守唄のはじめにくる，あやし詞です。ベンガル語はインド北東部のベンガル地域及びバングラディシュで広く使われている言語で，インドに数ある公用語の中でも最も豊かで発達した言語だといわれています。英語圏ばかりが世界ではありません。神秘の国インドへちょっと目を向けてみませんか？

日常生活に必要な言葉と合わせて，インドの習慣・生活がカレーの匂いとともに感じられ，今日からあなたもインド通。「嫁してインドに生きる」「私の中のインド」（915.9 Ta 18）と合わせて，お読み下さい。雪の夜，カレーを食べながら，暑いインドに思いを馳せる，なんていうのも素敵な冬のすごし方では？　(M)

大本小本　最近出版事情

'90公務員合格情報

公務員試験に ト・ラ・イ

平成元年度の本学の公務員試験合格者は280余名でした。また，'89年度の全就職者の内，公務員就職率は，法学部29.3%，経済学部15.3%，工学部19.7%でした。この度，図書館では公務員をめざす人のために，公務員受験関係の本を充実いたしましたのでご紹介します。

（２Ｆ開架　分類〔317.4 Ko 68〕にあります）

実務教育出版

'90地方上級・地方中級公務員試験合格情報

'90国家Ｉ・II種公務員試験合格情報

'90国税専門官採用試験合格情報

'90公務員試験国家Ｉ種合格体験記集

公務員試験：専門試験問題集／教養・採用／よく出る／教養分野・専門科目別／要点整理／選択枝で覚える／合格対策／各シリーズ etc.

公務員大卒技術系専門試験問題集〔工〕

公務員大卒程度警察官採用試験問題集

法学書院

公務員試験：学習案内／問題と対策／公務員問題集／よく出る判例／各シリーズ etc.

日本公務員試験センター

過去10年間実際出題～過去問の集大成～

公務員試験ハンドブックシリーズ

早稲田公務員セミナー

公務員受験講座　（酒）

"ミクロの決死圏"

『ＮＨＫサイエンス・スペシャル
驚異の小宇宙　人体　１～６/別巻１～２』

「ミクロの決死圏」という映画では，そのストーリーもさることながら，人間の内部を模した映像は当時，センセーショナルな話題を呼んだ。確かに現在見ても斬新なデザインである。あの"ダリ"がデザインを担当したらしいが（決してリアルに表現しようとはしていない。），見た者に「ふ～ん，あれが白血球なのか。ふむふむ」などと感心させるだけの説得力はあったと思う。

そして，その現代版とでも言えるのがＮＨＫで放送された「ＮＨＫサイエンス・スペシャル驚異の小宇宙・人体」。

ＣＧによる映像は技術の進歩を感じさせる。しかし，体内の表現は"スターウォーズ"のノリなのだ。今これを見て体内をスペースシップが行き交っていると信じる人はいないと思うけれども，新鮮味には乏しい。でも，これが本になると，しっかり"学術"しているのだ。「ふむふむ」と今回はＮＨＫに感心してしまった。

結論，やっぱりダリは偉大な人物だった！

「驚異の小宇宙・人体」

１．生命誕生
２．しなやかなポンプ―心臓・血管
３．消化吸収の妙―胃・腸
４．壮大な化学工場―肝臓
５．なめらかな連携プレー―骨・筋肉
６．生命を守る―免疫

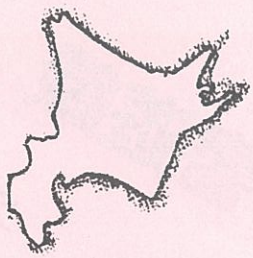
別巻１．ＣＧの世界
２．ビジュアル人体データブック（未刊）

新着図書 ―― 法律

コンピュータ犯罪と刑法　ウルリッヒ・ズィーバー著／**実務に役立つビジネスマンの商法入門**　井口茂著／**憲法にこだわる**　奥平康弘著／**法と社会の昭和史**　渡辺洋三著／**クレジット社会と法　消費者信用時代の法律問題**　長尾治助著／**安全配慮義務法理の形成と展開**　下森定編／**判例解説　憲法編　1**　林修三著／**日本国憲法「改正」史**　渡辺治著／**ある強盗事件の軌跡　―アメリカの刑事司法―**　Ｄ．クランプ　Ｗ．Ｊ．マーテンス著／**日本国憲法の条件**　小林昭三著／**行政契約の理論と手続　―補助金契約を題材にして―**　石井昇著／**憲法学者の大あくび**　尾吹善人著／**刑法重要判例集　総論**　八木胖編／**司法試験セミナー　1**　中央大学真法会編／**私のとった司法試験突破法　1989年版**　受験新報編集部編／**法人税法精説**　武田隆二著／**民法注解財産法　1**　遠藤浩［ほか］編／**プレップ　刑法**　町野朔著／**空法　1～23**　日本航空法学会編／**事例　破産法解説　―シナリオ＆主要判例―**　小島武司［ほか］編著／**刑法 NEW　入門**　榊原守著／**会社法務大辞典**　大隅健一郎［ほか］編

道産子読本

——ほっかいどうの本抄



4. 北海道の冬は厳しい

北海道の冬は，積雪との戦いの日々である。昨年の冬は勝った。いや，勝った気がしただけかもしれない。なぜなら，今年はいきなりノックアウトされたからである。「去年の冬は力を抜いていたな。騙された！」とわかっても，もう遅い。これだけ続けて降られると本当にまいってしまう。相手は，なかなか手ごわいのだ。こうなると，もう大人と子供の喧嘩。最初から勝負は見えている。だから，「おいおい，除雪がされてないぞ。札幌市は何をやっているんだ！ぷんぷん。」と怒る筋合いは無いのである。

でも，黙って負けるのも癪にさわる。ここはひとつ相手の研究でもしてみよう，と，**北海道大百科事典／北海道新聞社**で調べてみた。『積雪』の項目をひくと「積雪はいろいろな障害を人間生活に与える。」というところが目についた。交通障害，建物の倒潰，雪崩，雪解けの遅れによる農作業への障害，雪解けの洪水などなど。「薄々感付いてはいたけれど，本当に悪い奴だ。」しかし！その下には「雪は害だけでなく，人間を含む生物界に大きな恩恵をもたらす。」とある。当然のことながら雪国に住む我々はその生活用水の大半を雪解け水に頼っている。積雪は弊害はあっても，とにかく我々の生活に欠かすことの出来ないものなのである。「そんなこと，誰でも知っているぞ！」という声が聞こえてきそうだけれど，今こうやって新たにひもといてみると，ダウンした上にさらにボディブローをくらったような気さえする。「ふ～む」と腕を組んで考えてみる。やはり雪とは敵同志ではなく，仲良くお友達付き合いをしていかなくてはならないようだ。そうなると，ますます相手を良く知らなければならない。さらに，続けて見ていくと『積雪の諸相』という項目があった。すると，冠雪や雪面模様，風紋といった中に〝雪えくぼ〟なる名称も出てきた。こうなると「うんうん，そうかそうか，可愛いところもあるんだな」と簡単に納得してしまうのであった……。

このように，**北海道大百科事典**はいつも力を込めて見る必要はありません。暇なときにペラペラとめくっているだけで結構面白いものです。知っていそうで知らないことが案外多いものなんだなと実感します。

それでも，「除雪が遅い！」「こんな状態で1月2月を乗りきれるのか！」と叫びながら通勤する日々は続く。 (終)

北海道関係 —— 新着図書

風連町史　風連町史編さん事務局編／**ユーカラの祭り**　塩澤実信著　北島新平・絵／**ツンドラのカワウソ**　永田洋平著／**北海道山女魚の本／日本古典全集　復刻**　正宗敦夫編纂・校訂／**森の動物**　有沢浩著／**ひとむれ　1—4**　谷昌恒著／**北海道の海釣り　空から見たポイント**　道新スポーツ編／**美唄市史**　美唄市史編さん委員会編さん／**石狩湾　—大正デモクラシーを生きた母と子の物語**　井尻正二著／**アイヌって知ってる？**　横山孝雄著・絵／**山の王者ヒグマ**　永田洋平著／**北海道の渓流釣り　2**　山谷正著／**卓上四季　1—5**　北海道新聞社編／**原野に挑むアイヌ魂　—Kaneto—A Man of Bruning Sprit—**　小山内洸監修　プロジェクト・カネト編訳　M．ジュエル校閲／**北加里エゾシカ物語　—北海道の環境破壊史—**　藤原英司著／**山女魚・情報　1—3**　渓流同人会編／**人脈北海道　—スポーツ編—**　北海道新聞社編／**沙流郡のアイヌ語地名　1**　扇谷昌泰　島田健一著／**北海道の釣り場ここがポイント**　山谷正著／**野生のキタキツネ**　永田洋平著／**流氷**　田畑忠司著

書遊録

'90 資格試験 合格情報 ライセンスへトライ

一歩踏み出したら，初心忘れるべからず。続けることが最短距離。めざせ，憧れのマルチスペシャリスト。今，人気の資格試験合格のための最新の本を一点ずつ（紙面の都合上）ご紹介します。

○教師へトライ
　協同出版　教員試験の要点と問題シリーズ〔373.7 Ky2〕
○司法試験へトライ
　法学書院　司法試験　短答式問題と解説〔327.17 H81〕
○公務員へトライ（6p.「公務員試験」欄参照）
○税理士にトライ；税理士試験必携〔679.8 H81〕
○公認会計士にトライ
　中央経済社　受験案内　公認会計士のすすめ〔679.9 H74〕
○土地家屋調査士
　土地家屋調査士試験実戦問題集〔676.9 H81〕
○不動産鑑定士；不動産鑑定士必携〔676.9 H81〕
○宅建主任者；宅建主任者試験実戦問題集〔676.9 H81〕
○司法書士；司法書士試験必携〔327.17 H81〕
○行政書士；行政書士試験必携〔327.17 H81〕
○社会保険労務士；社労士試験解答集〔327.17 H81〕
○弁理士へトライ；弁理士試験必携〔507.29 H81〕
○測量士補へトライ；測量士補試験必携〔512.07 H81〕
○情報処理技術へトライ
　通産資料調査会　60情報処理技術者試験問題集〔549.9 H71〕
○ワープロ
　日本商工会議所　ワープロ技能検定試験標準テキスト〔582.3 Su96〕
○日商簿記検定；商工会議所　検定簿記講義シリーズ〔679.6 Ke51〕
○英検；実用英語検定1～3級全問題集〔830.79 N77〕
○TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）；English Journal 別冊
○通訳ガイド
　研究社　英語通訳ガイド試験対策問題集〔830.7 Y24〕
　法学書院　ガイド試験8カ国語解答集〔801.7 H81〕

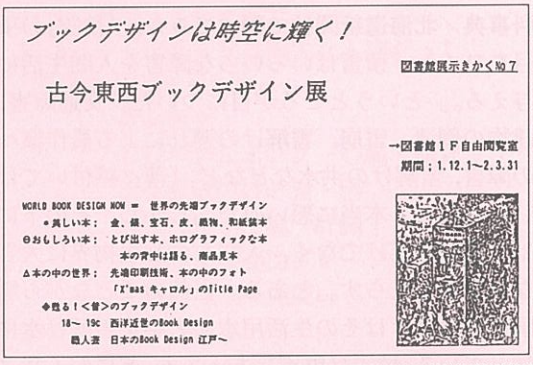
図書館展示会のお知らせ

平成元年12月1日～2年3月末まで下記のテーマで展示中です。ぜひ，ご覧ください。

テーマ：「ブックデザインは時空に輝く！～古今東西ブックデザイン展～」（図書館きかくNo.7）

場　所：自由閲覧室一階

ポスター



新着図書 ── 工学部

わだばゴッホになる　棟方志功／**土木・建築技術者のための最新軟弱地盤ハンドブック**　建設産業調査会／**皿の上の自然**　G．ブラン／**日本人の人生案内**　読売新聞／**河川汚濁のモデル解析**　國松孝男／**VAX C Version 2．2ドキュメント・キット**　日本ディジタルイクイップメント／**環境化学物質要覧**　環境庁／**舗装試験法便覧**　日本道路協会／**近代化への道程　―中国・激動の40年―**　共同通信社／**ソフトウェア講座　40**　昭晃堂／**近代都市計画の百年とその未来**　日本都市計画学会編／**雪害　―都市と地域の雪対策―**　沼野夏生著／**中島公園百年　―さっぽろ歴史散歩；民衆の発掘した歴史の証明**　山崎長吉著／**オゾン層を守る**　環境庁「オゾン層保護検討会」編／**やさしいセンサ技術**　自動化技術編集部編／**若者・アパシーの時代　―急増する無気力とその背景―**　稲村博著／**家づくりのチェックポイント**　住宅金融普及協会審査部編／**建築模型入門**　吉田襄著／**新うっかり間違える構造力学**　井上充彦著／**成功の原則　―戦国と現代；作家や学者が書かなかった［真の勝者］―**　新井喜美夫著

ことの葉 グルメ記
――外国語こぼれ話――

日出ずる国

大 江 敏 美

黒海から地中海に水の流れ出るボスポラス（ギリシャ語で牛の渡る浅瀬）海峡が，ヨーロッパとアジアの境界です。この海峡の西側がイスタンブール（昔のコンスタンチノープル），東側がウシュクダラで，戦後この名のラブソングが世界中で流行しました。さらに東に向かうとイランとの国境に到達しますが，そこに至るまでが，アナトリア地方であり，トルコの主要部なのであります。

アナトリアは古代ギリシャ語『日出ずる方向の土地』の訛ったものといわれています。東端には，旧約聖書のノアの箱船が着いたというアララト山（5,165 m）が聳えていますが，鉄器文明をもったヒッタイト民族やアルメニア民族が覇を唱え，やがてペルシャとギリシャの英雄が活躍し，原始キリスト教徒がエルサレムからローマに向かって布教し，ローマ軍が西から，また東からは中央アジアや蒙古などからの騎馬軍団が駆け巡り，さらに西から欧州キリスト教十字軍が押し寄せるなど，民族興亡の歴史の舞台です。最後に登場したオスマントルコは，600年の治世の最盛期にはその領土をウィーンのそばからアルジェリア，アラビアまで拡張し，スーパーパワーとなりました。

オスマントルコは第一次大戦でドイツ・オーストリア連合軍と組んで敗れ，帝国は解体されました。しかし英雄ケマル・アタ・チュルクの率いる民族独立軍がギリシャほかの占領軍を打ち破り，新生トルコを建国しました。彼がモデルとしたのは，日露戦争で大国ロシアに勝ったアジアの小国日本で，過去13回，ロシアと戦ってきたトルコに大きな自信を与えました。トルコが現在世界中で最も親日感情の強い理由がそこにあります。

アタ・チュルクは，国つくりに障害のあるイスラムを排除するため政教分離を行い，国語改革を断行しました。トルコ語は，日本語，韓国語，満州語，蒙古語などと同じような文法構造（語順・膠着性など）をもっていますが，それまでアラビア文字で表記していたのを，ローマ字表記とし，また当時のトルコ語に充満していたアラビア語とペルシャ語の単語を追放しました。アタ・チュルクは自ら村むらを回って子供から老人にいたるまでローマ字による新しい国語の普及に努力しました。

かってトルコが支配していたバルカン（トルコ語で山）地方では，いくつもの民族が居住し，言語ほか生活上の差別をされ，今各地で少数民族運動を起こしています。自分達の言葉を公用語にせよ，それを小学校で授業せよ，それによる新聞の刊行を認めよ，支配民族の言葉による改名を強制するななどと要求しています。それはバルカン諸国内のみならず，ソ連のいくつかの共和国内でも政治問題化しています。総人口900万のブルガリアは，トルコの西北隣りですが，100万のトルコ系の住民のうち，差別にたえきれなくなった31万人が昨年5月から国境閉鎖をされる8月までにトルコに「大脱出」してきたとニュースは伝えています。ブルガリアではジフコフ書記長はじめ旧指導部が昨年11月以降に交代しましたので，この問題の解決も図られることでしょう。

（おおえ　としみ　教養部教授）

教養――新着図書

黄金の鳥　荒俣宏編著／**激動の昭和スポーツ史　18**　ベースボール・マガジン社編／**経済大国日本の強さともろさ**　丸茂明則著／**オスカー・ワイルド全集　1～6**　O．ワイルド著／**地方別・日本の名族　1**　オメガ社編集／**BE―PAL Outing Mook 1，2**　BE―PAL編集部編　**1．カヌー・リバーツーリング入門／現代住宅秀作選**　日本プレハブ建築研究所編集／**公務員白書　平成元年版**　人事院編／**エスクァイア　アメリカの歴史を変えた50人　上／日本語話題事典**　渡辺富美雄［ほか］編著／**哀しい予感**　吉本ばなな著／**日本の水彩画　1～10／現代消費科学入門**　塩田静雄［ほか］著／**ジョン・レノン　上，下**　R．コールマン著／**キャンパス・トピックス　―こころ探し―入学から卒業まで―**　神保信一編／**プライバシー侵害**　山本健治著／**ハレーダビッドソン80年史**　D．K．ライト著／**東京をどうする・地方をどうする**　八幡和郎　加藤周二著／**情報公開制度論**　本田弘著／**自動車メカニズム図鑑，続**出射忠明著／**国際化時代の北海道農業**　北海道エルム農経懇談会編／**日本経済の流れを読む**　土志田征一編

季想点描

オブジェのある風景

画と文　國田祐作

あれは何の映画だったか，林芙美子モノーの一シーンだった。夜道を歩いていて，母親役の浦辺粂子が路上に光るものを見つけて，「おや，指輪じゃないかい」と拾う。傍らの高峰秀子がつまらなさそうに，「なによ，ビールの口金じゃないの」。

ある年配以上の人なら，こんな経験を一度ならずしているはずだ。つまりヒカリモノに弱いのである。ミミッチイと思いながらも路上の光りモノに目だけは行く。一種のワナである。缶ビールの口金を，さり気なく靴先で確めている人の頭には，一瞬プラチナの光茫が明滅している。

朝鮮戦争が起こると，銅，鉄，鉛などの軍需物資のネダンが暴騰した。金(かね)ヘン景気と呼ばれた。家庭にある金属類を古金屋(ふるがね)が高値で買い漁り，道端の鉄くず拾いが流行した。絵描きの使い古した鉛の絵具チューブを集めたらひと儲けできる，と真剣に考えた人間もいた。開高健の『日本三文オペラ』には，このころの金(かね)ヘン狂いが如実に描かれている。一片の鉄くずがそのままパンだった時代である。もっとも，第二次大戦直後，ナポリ湾に停泊したアメリカの軍艦が一夜で盗まれるという事件があったというから，上には上がある。ナポリの連中は軍艦一隻をまるまる胃袋に呑みこんだのである。

電線工事の跡には被覆銅線の切れ端や，連結用のボルト付き金具などが捨てられていた。散歩の折，私はためらわずそれを拾った。大義名分があるのだ。オブジェ蒐集，これである。実際，先ほどの金具のような，立派な機能(はたらき)を持ちながら無用になったものは，オブジェとしてホレボレするような味わいがある。用途から切り離された瞬間，モノ自体が主体として存在しはじめるのだ。いつの頃からか，管理係という腕章をつけたオジサンが残らず跡片付けをするようになって，楽しみがなくなってしまった。職場の合理化運動が道端にまで及んだのである。

講談社のピカソ全集の帯広告（腰巻きというヒトもいる）には〝造形手品師の腕前，廃品再生の妙技！〟というキャッチフレーズが振られている。オブジェ彫刻を指しているのだ。ピカソは鉄くず置場から拾った材料でモノを構成した。切断し，曲げ，熔接し，死んだモノにいのちを吹きこんだ。自転車のサドルとハンドルがたちまち牡牛の頭になり，異質のモノの寄せ集め（アサンブラージュ）が不意に女体に変貌する。いまでは，オブジェ彫刻もそれほど目新しいものではなくなった。展覧会でも，せいぜい〝何ダ，コレハ〟と呟くだけで済んでしまう。巨大な日常性がいくらでもオブジェを取り込み，吐き出している。路上に積み上げられた廃品の山の前では，ピカソのオブジェは

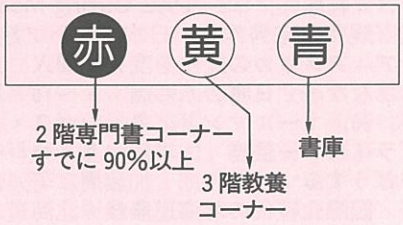
としょかん用語集(4) ── 図書収容率

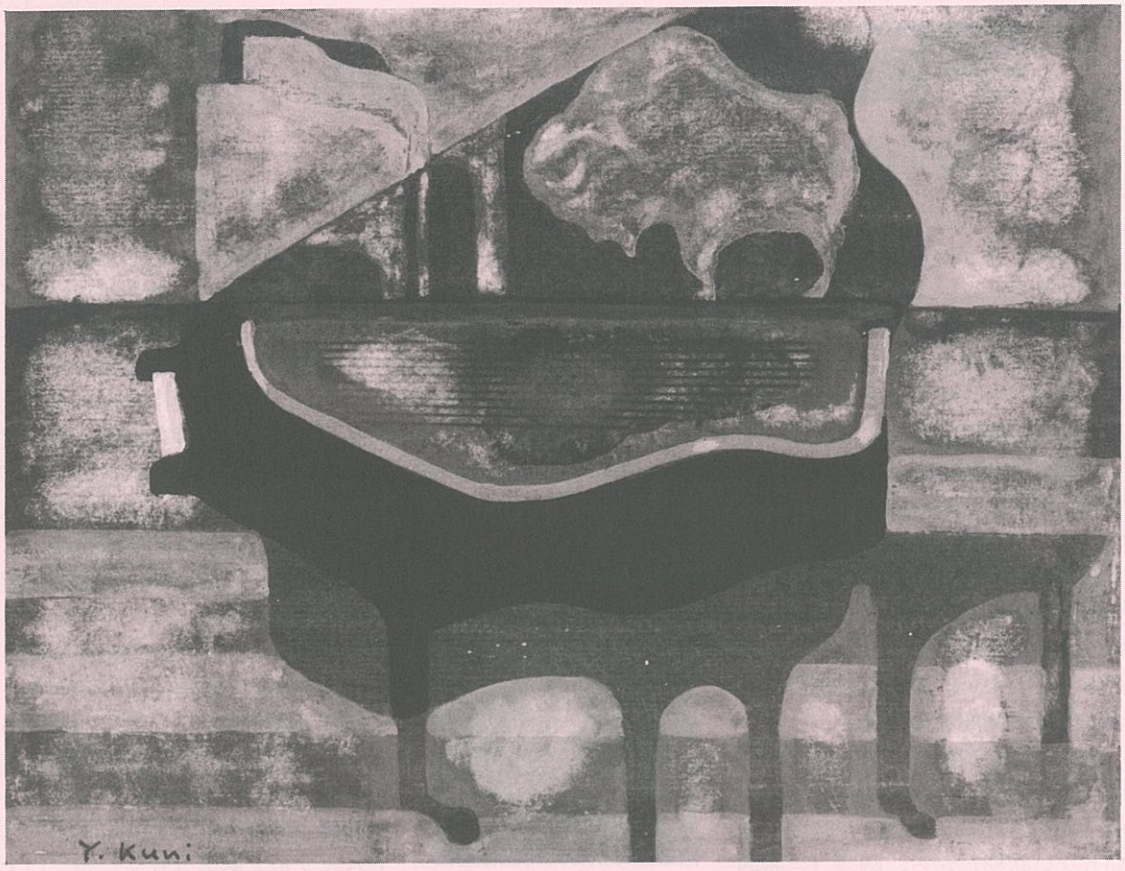
書架にどの程度の本がつまっているかをみるのが「図書収容率」。

開架に関する限り2階の専門図書コーナーは早くも「赤信号」が点灯していることはご承知の通り。

特に法律・経済図書の充実をめざした結果，手のとどくところの空間は90％の状態。

これから新刊図書を10年～20年と入れて行くとすれば今のスペースの5倍以上は必要ということになりそうです。





ピアノとバイソン

可憐でさえある。

学園近くに，廃品回収業の家がある。自転車，冷蔵庫，石油缶，鉄パイプ，簡易ベッド，額縁，鳥カゴ，角材，テレビ……，その他無数のモノが集積場の中庭から表口までハミ出して，ついには母屋（おもや）を覆いそうな勢いになっている。それらは互いに絡み合い，抜き差しならぬ緊密な構造体になってしまった。回収一方で出て行くことがないから増殖するばかりなのだ。

その山はすでに軒の高さを超えた。家がその中に埋もれる事態さえ起きかねない。雪中に，それ自体，家の輪郭をもったオブジェとして在る風景は，いささか黙示録ふうに見える。オブジェとは本来，そのように内なる廃墟を人間に開示したものであった。

（くにた　ゆうさく　教養部教授）

ライブラリアンは掃除好き!?——クリーナーも地球をまわる

世の中「そうじ嫌い!!」が増えてクリーナー会社は今では成長産業の一つ。

図書館といえば「知の宝庫」であるものの，そこは「ほこりの山」でもある。

１台のクリーナーが朝一番で館内に鳴りわたるところから一日が始まる。

１冊１冊の本の上にたまったほこりを取りのぞくのは根気がいる。夏から毎朝20分間かけてようやく半年で２階の専門アロアーを終えようという歩み。

図書館の本には「分類」や「レファレンス」の項目はあるが「掃除」の項目はない。

しかし大切なのは「本を清潔」に保つ心がまえだろう。

知の宝物のほこりは他人ではなく己からの手でとりのぞきたく４万キロ「地球一周」をめざす。

宇宙を感じながら＊＊＊最終回

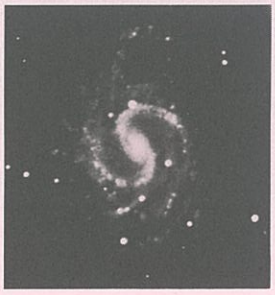
「わからないことがいっぱい」

楽天室

岡　崎　敦　男

1929年，E．ハッブルは，宇宙が膨張していることを発見した。この画期的な発見は，過去にあらゆるものが一点に集中していた瞬間（＝宇宙の始まり）の存在を示唆している。始まりの前は何だったのか？　宇宙はどのように始まったのか？このような疑問が直ちに心に浮かんでくる。

膨張宇宙の発見は，さらに宇宙の将来についての疑問も芽生えさせる。膨張は永遠に続くのか？　遠い将来には膨張が収縮に転じ，宇宙は最終的には始まり以前の状態に帰るのだろうか？



残念ながら，僕らにとって興味深いこれらの疑問に対する解答はまだ得られていない。これらの疑問は，根本的な大問題なのである。

例えば，研究者に宇宙の始まりについて尋ねれば次のような答えが帰ってくるだろう。「無（＝時間も空間もない状態）から，時空（＝時間と空間）の泡が無数に生まれ出た。その泡の一つが，私たちの住んでいる宇宙に成長したと考えられる。あるいは，私たちのこの宇宙は，他の宇宙の子供として生まれてきたのかもしれない。時空の泡は宇宙の中にも無数に発生するのだから。」

このように言われると説得されてしまいそうな気もするが，実は，無から宇宙を創り出す理論は未完成である。したがって，上の言葉は，解決への長い道のりの途中で述べた見通しに過ぎない。

では，宇宙の終わりについてはどうだろうか。原理的には，膨張が永遠に続くかどうかは宇宙の曲率を調べれば解ることである。曲率が正ならば将来収縮に転じるし，負ならば永遠に膨張することになる。ところが，期待に反して結論は出なかった。意地の悪いことに，宇宙の曲率はほとんどゼロだったのである。これは，永遠に膨張するか将来収縮に転じるのかの境目の微妙な状態で宇宙が膨張していることを意味している。宇宙がどちらに転ぶかを決定するには，現在の地上望遠鏡よりもずっと遠方まで正確に見通せる望遠鏡が必要になる。というわけで，天文学はいまだに宇宙の終末についても確かなことが言えないでいる。

他にも解らないことはいっぱいあるけれど，天文学の見通しは明るい。というのは，待ちに待ったスペース望遠鏡（膨張宇宙の発見者にちなんでハッブルと命名された）が，いよいよこの3月に打ち上げられるからである。ハッブルは，軌道上から従来の地上望遠鏡よりもはるかに遠方の天体をずっと高精度で観測できるために，天文学に飛躍的な進展をもたらすことだろう。ハッブルは，宇宙の歴史や宇宙の運命に関する疑問の数々に答えてくれるはずである。90年代前半には地上にも巨大な望遠鏡がいくつか建造される。天文学者にとって幸せな90年代が今始まろうとしている。

（おかざき　あつお　教養部講師）

編集後記

●1989年から1990年にかけて“ベルリンの壁崩壊”に代表されるように，東欧に民主化の嵐が吹き荒れました。●それに呼応するかのように今，北海道では大雪が吹き荒れています。●賛否両論，渦巻くなか，4号続いた“桃色図書館だより”も今回で一応終ります。●新年度からの新編集委員による“洗練された大人の図書館だより”を，どうぞご期待ください。

北海学園大学附属図書館報
図書館だより
Vol.11No.4.（通巻112号）

本　　館　〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室　〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841－1161
本館内線　270～275・279
工学部内線　813・814